

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	令和7年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
	学力向上	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 学習に課題を持つ生徒が多数入学してくる本校の状況を踏まえ、各教科で基礎基本を重視した指導の充実を促進する。 基礎補充・基礎固め学習会・大学生教育ボランティアによる補充等を昨年に引き続き実施し、成績不振者への指導を継続する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 基礎補充については夏休みに2回、基礎固め学習会については、1学期末考査前に実施した。2学期以降についても引き続き根気強く指導していきたい。 家庭学習強化週間については、事前に目標をたてさせ、考査後は成績個票を配布し、考査の振り返りの機会を設けて、学年部と情報を共有してきた。引き続き協力し、自主的な学習習慣の確立に向けた指導を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎補充、基礎固め学習会については、当初の予定通り実施できた。今後も、学年・教科と連携し、引き続き根気強く指導していきたい。 家庭学習強化週間については、新しい取り組みを継続してきたが、その実効性について学年団からの意見を聞き、次年度の取り組みに活かしたい。
		学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、学年部と連携し、家庭学習強化週間など自主的な学習を促進する取り組みを企画、実践する。 スタサブ等の学習ツールの活用を促進し、教務部の取り組みの強化・充実を図る。 	3	3			
教務部	授業改善	充実した授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> 教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。 ベル始業、授業はじめ・終わりのあいさつ、携帯電話の注意等引き続き全教職員で一致した指導を行う。 生徒の実態に応じた授業実践を通して、学習意欲を喚起し、主体的に学習する態度を育成する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業については、概ね落ち着いた雰囲気のもと実施できている。今後も全教職員の一致した指導の下規律ある学習環境づくりを継続する。 本年度についても、授業アンケートの内容は教科毎に独自に実施してもらい、取り組みの状況をダイレクトに確認できるような体制を継続していく。年間2回の公開授業週間、夏休みに行われた教育課程研究協議会の内容を踏まえ、指導力向上に向けて教科内で交流する予定である。 教職員の授業等でのタブレット等の使用については教員間でバラツキはみられるが、浸透してきており、今後さらにICT教育の推進を図っていきたい。 総探については、主に会議を通じて指導内容を共有し、引き続き担当者、講座間で差が出にくい取り組みを継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業については、概ね落ち着いた雰囲気のもと実施できている。今後も全教職員の一致した指導の下規律ある学習環境づくりを継続する。 教科の指導力向上については、公開授業週間・授業アンケート・教科内での授業交流など、予定どおり実施することができた。公開授業週間においては、多くの先生に授業を参観いただき、また、情報共有をすることができた。 2年生探究においては、総探担当者会議を母体とし、予定通り運営できた。
		教科の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学び、行動する生徒の育成を目指し、学習に対するモチベーションの向上を目指す。 公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。 授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のICT機器や、スタサブ、ロイノート等の学習ツールのさらなる活用を促進し、全教職員のスキルアップを図る。 	3	3	3		
		新指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価について、生徒の実態に則して適切な評価となるよう各教科と連携し改善を進める。 総合的な探究の時間の実施においては、担当者の負担軽減を図りながら、スムーズな運営と質の高い授業を目指し改善を図る。 	3	3	3		
図書部	図書館教育	読書内容の深化	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は貸出冊数の増加は見られたが、活字主体の図書の利用が少なく、マンガ中心の利用が多い。今年度も教務部（図書担当）のみならず学年、教科の協力も得ながら活字主体の図書の利用増を目指して様々な活動を行う。年間の貸出冊数の50%を活字主体の図書の利用となることを目指す。（昨年度39%） 	1	1	2	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況に関しては8月現在で入館者数4510人と昨年約1.5倍となったが、貸出は683冊と昨年比5%減。昨年度末「課題」として司書以外の教諭の読書への働きかけが引き続き必要となる。活字主体の図書の貸出は現状22%と目標にほど遠い。 情報発信が不十分なためか「探究」「書道」を除いての教科での利用・連携は8月現在「家庭科」の2時間にとどまり、学校経営の重点（4）をどのように達成するか大きな課題である。 図書委員会では生徒が企画アイデアを出すといった動きはあったが、前期読書週間への生徒の参加は低調であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況に関しては1月30日現在で入館者数10638人と昨年約1.6倍超えとなったが、貸出は823冊と昨年比51%減。昨年度末「課題」として司書以外の教諭の読書への働きかけができなかった。活字主体の図書の貸出は現状36%と目標にほど遠い。 図書受入・廃棄作業の増加で図書館の有用性についての情報発信ができず「探究」「書道」を除いての教科での利用・連携は1月30日現在10時間にとどまった。学校経営の重点「（4）学校図書館教育の充実」を達成するためには担当者の明確化と協力が必要である。 図書委員会では、積極的な活動をする生徒もいたが、全般的には低調な参加状況であり、十分な指導ができなかった。
		教科・分掌との連携	<ul style="list-style-type: none"> 「教職員向け図書館だより」の定期的な発行などで学校図書館の存在意義についての情報発信を行いながら、2年次の探究学習を始め、各教科・学年・分掌などと連携し、図書館利用を通じて生徒の基本的な情報検索・活用能力を養う。環境整備面ではコピー機の導入を考える。 	1	2			
		図書委員会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見を取り入れながら読書週間などのイベントを通じて生徒の活躍の場を増やし、図書委員会のさらなる活性化を図る。 	2	2			

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	令和7年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
生徒指導部	基本的生活習慣	生徒が学校に軸足を置いた生活が送れるように、さまざまな指導を全教職員で連携して行う。	・基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上のため、遅刻、制服の正しい着こなし、身だしなみを整えることに重点を置いた指導を行う。また、指導が必要な場合は丁寧に話をするにより、多様な考え方をを持った生徒にも寄り添った指導を行う。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや登下校のマナーについては、事ある毎に声かけをすることで規範意識を持たせるようにしている。 ・自転車の運転については、大事には至ってないが何件か事故もあり、今後も更なる注意喚起が必要である。 ・スマートフォンやタブレットに関しては、今年度も授業中の不正使用が時々みられるため、巡回や各教科担当が呼びかけをして未然に防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な身だしなみ指導だけでなく、日常の指導でも担任や教科担当と連携をし、改善するよう各種指導を丁寧に行った。次年度も引き続き丁寧な指導を行いたい。 ・登下校のマナーについて、近隣住民や、電車の乗客から苦情が複数回あったが、その都度教室掲示や集会時に注意喚起、登下校時に巡回する等した。次年度も未然防止を中心に指導を継続していきたい。 ・今年度はSNSによるトラブルが2件発生したが、その都度担任や顧問と連携して対応することができた。タブレットについては、授業中の不正使用も見られ、今後も継続的にHRや授業の開始で注意喚起をこまめに行う必要がある。
			・登下校でのマナー（電車マナー含む）を周知徹底するとともに、事故の数（特に自転車事故）を少なくできるよう城陽警察や地域ボランティアの協力のもと、注意喚起を継続的に行う。	2	2			
			・授業開始時の規律を確保するとともに、タブレットや携帯電話等についてのルールを定期的に確認し、これに関わる指導を減少させる。	3	3			
	特別活動	部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化する。	・全部活動で挨拶、礼儀、清掃活動等を行うことで活性化を図る。また、学校行事において部活動員が積極的に参加することにより、学校運営の柱となれるようにする。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も各行事において、部活動員の協力のもと準備・後片付け等を行うことができ、行事の運営について重要な役割を果たしている。 ・部活動については、大半が活発に活動している。一方で加入しているもののほとんど参加していない生徒もみられるが対応できていない。 ・生徒会活動については、担当教員がサポートしながら、生徒が活躍できる場を作ることで、将来的には生徒が主体的に活動できるようになることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事において、部活動員の協力のもと準備・後片付け等を行うことができ、行事の運営について重要な役割を果たした。次年度以降も、先輩が後輩に引き継ぐ流れと環境を作っていきたい。 ・各部活動顧問の熱心な指導により、活動している生徒はひたむきに取り組んでいる。1年生についても、大半が活発に活動しており、未活動者も昨年度より減少しているが、次年度も引き続き対策を考えていきたい。 ・生徒会活動については、体育祭で今年度新たに生徒会企画の種目を増やすなど、担当教員のサポートのもと各行事で活躍してくれた。来年度以降、生徒が主体的に活動できるようになる場面を少しずつでも増やしていきたい。
			・1年生部活動一斉加入では、未活動者がでないように各部活動で継続的な指導を行い、生徒が活動できる場を提供する。未活動者については学期ごとに活動状況を把握し、指導を行う。また、2・3年生についても3年間継続できるような指導を行う。	3	3			
・生徒会活動を中心にして、各委員会やボランティア活動を活性化し、生徒が主体的に活動できるような環境をつくりサポートする。また、各行事においては新しい取り組みを少しずつ取り入れることを検討する。			3	3				
いじめの防止	いじめの定義について全教職員で把握し、いじめに対して早期に対応できるようにする。	・職員会議等でいじめの定義について周知し、生徒についての情報共有や教員間の連携を行うことで早期に対応できるようにする。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に職員会議にて、いじめの定義について確認し、共有することができた。担任と生徒指導部が連携をして情報共有をすることで、未然防止をしている。 ・いじめ調査において、集計後、いじめ対策委員会を開くことで、情報を共有することができた。今後、組織として対応できるように学年部と連携を取り続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に職員会議でいじめの定義について確認、共有した。 ・いじめ調査において、第1回また第2回と集計後いじめ対策委員会を開くことで、情報を共有することができた。来年度も組織として速やかに対応できるように学年部や関係機関と連携を取り続けていきたい。 	
		・いじめ対策委員会を開くことで、情報の共有を密にし、組織でいじめに対して対応できるようにする。	3	3				
人権教育	学年や分掌・教科と連携しながら、さまざまな人権問題について学習を深め、人権尊重の実践的態度を育む。	・3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・人権だよりを発行し、教職員にフィードバックを行うことができている。引き続き3年間を見通した人権学習を実行できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も担当教員の企画等により、充実した内容の教育とフィードバックができた。 	
		・「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての教職員にフィードバックする。	3	3				

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	令和7年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
進路指導部	キャリア教育の推進および希望進路の実現	生徒の希望進路の実現に向けた意欲と学力を向上させるとともに、社会性の獲得を支援し、可能性を開花させる取組を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育実施計画に基づき、多様な背景を持った人材・外部の教育資源の活用を柱とした「TAG城陽」の取組を推進し、生徒のコミュニケーション能力の向上や、集団や社会の一員としての見方、考え方の獲得を目指す。また、自分自身で進路を切り拓く能力や態度を養う。 	2	3		<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育実施計画に基づき進路学習を実施したが、諸般の事情により1年6月「進路学習」を実施できなかった。 実施できなかった1年6月「進路学習」について、11月以降の計画を大幅に変更することで適切に生徒の進路意識の涵養を図っていく。また、来年度に向け、生徒一人ひとりが職業・産業の多様性を理解し、自分自身の生き方・あり方を踏まえた進路選択に繋がられるような内容・実施形態を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画の一部変更が生じたものの、臨機応変な対応により滞りなく進路学習を実施した。 生徒が社会の多様性を学び、自己の在り方に基づいた進路選択へと繋がられるよう、学習内容の充実と効果的な実施形態の構築を継続して検討していく。
			<ul style="list-style-type: none"> 就職補講や進学補講、業者模試等を適切に実施することで、継続的、主体的に学習に取り組む生徒集団を形成するとともに、生徒が粘り強く希望進路の実現を目指せる環境を整備する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 就職補講や進学補講、業者模試等を適切に実施することができた。 4月から就職補講を受講していた学校紹介による就職希望者は、全員応募事業所からの内定が出ている。 新たな取組である1、2年入試実戦力養成講座は、進研模試を短期目標に据えて継続的に実施することで、受講者並びに教科担当の意欲向上につながっていると考えられる。来年度以降に成果が出るように、より効果的なシステムを検討、構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望に合わせて就職補講や進学補講、業者模試を実施した。 学校紹介による就職希望者については、全員応募事業所からの内定を得ることができた。 難関・中堅私大の公募制推薦入試や、国公立大の総合型・学校推薦型選抜入試における合格率は数%に留まっている。生徒の進路を保証する観点からも、各教科と連携した組織的な対策を講じ、合格率の改善に向けた方策を検討する必要がある。 新たな取り組みである1・2年入試実戦力養成講座は、進研模試を短期目標とした継続的な実施により、受講生の学習意欲ならびに教科担当者の指導意欲の向上に寄与していると考えられる。運営上の課題を整理・分析した上で、来年度以降の具体的な成果を見据え、より効果的なシステムを再構築する。
			<ul style="list-style-type: none"> 「進路のしおり」の充実を図り、各種説明会を実施することで最新の進路情報を適切に提供するとともに、学年部と連携し生徒とのカウンセリングの機能を高める。また、ICT機器を活用した進路指導を推進する。 	2	3		<ul style="list-style-type: none"> Webサービス「マナビジョン」「Compass」を活用し、進路希望や業者模試の結果等を学年部と即時的に共有することができた。 教育プラットフォーム「スタディサプリ」について、学習面で十分に活用できているとは言えない。来年度に向け、進路指導部としての取組を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育プラットフォーム「スタディサプリ」やWebサービス「マナビジョン」「Compass」を活用し、進路希望や業者模試の結果等を学年部と即時的に共有することができた。 生徒のニーズが複雑・多様化している現状を踏まえ、生徒の個別最適化学習や、進路意識の高揚を支援し、質の高い進路指導が実現できる適切なサービス・方策を検討する。
保健部	保健管理	生徒の理解（教育相談）と支援	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断や健康相談を実施し、生徒の健康状態の把握と指導に努める。 担任や教科担当者と生徒の情報を共有し、教育相談会議を通して、支援につなげる。 特別支援教育の視点を活かし、支援対象生徒の把握と支援に努める。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 4月に健康診断を実施し、定期考査ごとに教育相談会議を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に健康診断を実施し、12月以降に体育の持久走やロードレース大会に向けての健康相談を実施した。 定期考査ごとに教育相談会議を開催し、配慮の必要な生徒について学校として支援できた。 考査支援が必要な生徒に対して先生方の理解と協力を得て、適切な支援を実施することができた。 来年度以降の健康診断の開催方法について他校の情報を聞く等して検討したが、医師の都合上例年とおりの開催方法となる。
	校内研修	教職員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症予防の校内研修会を実施することで、生徒が倒れた場合などに、教職員が適切な対応を取れるようにする。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 7月に教職員と生徒対象に合同で熱中症対策の研修会を大学の助教を招いて実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に教職員と生徒対象に合同で熱中症対策の研修会を大学の先生を招いて実施した。
	安全管理	校内美化・環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 授業時に教室を確認し整った環境で授業を行うとともに、日常の清掃活動を丁寧に行うことを定着させ、美化意識を高める。 	3	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会によるHR教室の清掃点検や日常清掃での担当教員の指導等で取り組み姿勢に少しずつ改善が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会によるHR教室の清掃点検や日常清掃での担当教員の指導等で取り組み姿勢に少しずつ改善が見られる。 2学期から新たに「学校をきれいにしたい!!大作戦」を実施した。期間中は普段以上に積極的に取り組む生徒が多く見られたが、定着には及んでいない。来年度は1学期から清掃点検との抱き合わせで開催し、美化意識の向上に努めたい。

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	令和7年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
総務企画部	外部評価	学校評価アンケートの回答数確保及び年度比較による取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 「学校評価アンケート」について、過半数を目標とする回答数の増加を目指す。 「回答結果の年度毎の推移」を、今後の本校のあるべき方向性を検討するための材料に資するよう努める。 	/	3	3	令和8年1月実施予定。ICT化に伴い減少した回答数は回復傾向にあるが実施目的を対象者に周知する等、さらなる回答数確保に努めたい。また、アンケート項目に「SNSによる広報の是非について」を追加し、次年度の広報手段についての検討材料としたい。	<ul style="list-style-type: none"> 課題であった回答数は今年度374件と昨年度312件より19%増加。ようやく全校生徒保護者数の半数に近い回答数となった。 生徒を対象にSNS運営の是非について問うたところ61%が肯定的、22%が否定的、14%が「わからない」という回答であった。
	家庭・地域社会との連携	保護者等へのPTAの諸活動の「見える化」と、より本校教育活動に資する支援事業の企画立案・運営	<ul style="list-style-type: none"> より効率的なPTA諸活動の運営に努めるとともに、本校ホームページや「PTAお知らせメール」等のツールを活用し、本校保護者等へのPTA諸活動の様子を積極的な発信に努める。 	3	3	3	PTAの文化祭支援事業として、前年度は一日のみだったキッチンカーを二日間開催とし、好評であった。また、月間行事や学校行事を周知する手段として、「多言語アプリ」を試験導入しているところである。	<ul style="list-style-type: none"> PTA諸活動の様子について、公式HPには画像を多く発信することにより「見える化」を実現した。 次年度に計画する諸行事に向けて、会員の積極的参加をより一層促して行きたい。
	広報	本校教育活動の「見える化」の推進及び特徴的活動の積極的な広報	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度「学校経営の重点」としての「読解力・語彙力」の強化を推進する本校の姿を広くアピールしていくことを目指す。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 夏の部活動体験および9月27日学校説明会は成功裏に開催することが出来たが、具体的方策に掲げた「読解力・語彙力」を推進するという点では十分とはいえない。また、夏の部活動体験の8月後半実施分については、申込締切時期をいわゆるお盆以降に設定した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の広報活動の中で「『読解力・語彙力』の強化」というワードが直接的に前面に出る場面は多くはなかったが、企画運営する中で常にこのワードを基軸として意識した展開を行うことが出来たと考える。 次年度は6月にも学校説明会を開催すること、夏の部活動体験8月後半実施分の申込締切時期に配慮が必要。
			<ul style="list-style-type: none"> 広報活動全般において、「生徒の主体的な活動」を中心にした展開に努める。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭終了後に生徒会役員の2名が説明役を担ってくれることになり、説明会の場面では「生徒自身の言葉と資料」でのプレゼンを初めて行うことが出来、これが大変好評であったが、準備のための時間が非常にタイトでもあった。来る11月8日はまた違った形でのプレゼン企画が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月・11月説明会ではそれぞれ異なる生徒がその役割を担ってくれた。結果的に彼らのプレゼンは好評であったが、担当生徒の掘り起こしという面では今年度も困難が伴った。やはり年度当初に「学校アピール隊」的な組織を構成出来れば良い。また、教育活動と広報活動は車の両輪のようなものではないかと考える。
<ul style="list-style-type: none"> 公式HP運営について、外部に向けて、より本校教育活動の「見える化」に資する運営に努める。 			3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 説明会への参加申込のほとんどは自動返信メール機能のあるWeb申込システムによるもので、役立っているところであるが、次年度に向けてSNSの活用について検討する必要もあるのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後のネット広報について、PTAお知らせメール廃止及びスタサブ導入による在校生向け情報の特化とともに、中学生等を対象とした広報戦略の充実として、陳腐化することの無い継続的なSNS運用が求められる。 	
国際理解教育	国際理解教育講座の円滑な企画運営及び国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒に府教育委員会「府立高校生海外留学支援事業」をはじめとする留学支援事業への参加を喚起し、本校生徒の海外留学への意欲を促進する。 年間LHR計画の中に国際理解教育講座を位置づけ、より生徒が興味関心を持って学習することが出来る内容を企画する。 	/	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年1月に開催予定の国際理解教育講座に向けて、京都府国際課「令和7年度京都府名誉友好大使」を活用した内容の企画を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> イスラエル出身の大使を招聘し1月22日に講座を実施したところ、生徒たちには異文化に触れ理解を深める貴重な機会となった。 次年度は、より効果的な事前学習の導入や講師と生徒の双方向的なやりとりが出来るといえるような取組を視野に入れて企画立案したいと考える。 	
第1学年部	学習指導 進路指導	学習習慣の早期定着 各自の進路目標に応じた文理選択の推進	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部や教科と連携して学習に関わる情報を定期的に伝えることで、学習の意義を理解させ、早期に学習習慣を付けさせる。 面談等を通じて生徒一人ひとりが2年次以降のコース・科目登録にしっかり対応できるように各分掌・教科と連携して文理選択を進める。 	2	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 学力面では課題が多く、成績不振科目を保持する生徒は多い。 面談等を通して、個々の課題と向き合いながら粘り強く指導を継続する。 保護者の多国籍化に対しては、人権担当と連携を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習やHR、面談等を通して、卒業後の進路、そして将来を見通して学習に向かわせるよう働きかけはするものの、学習習慣が身につけていない生徒が多い。 模擬試験、HOPE講座ともスタンダードコース生徒の参加が少なく、今後、各教科、各分掌に協力を仰ぎながら粘り強く声かけし、学習集団を構築していきたい。
	生徒指導	ルールの遵守、人権尊重の意識の定着	<ul style="list-style-type: none"> 様々なルールをただ守らせるのではなく、理由を理解させたいとの継続指導をおこなう。 適切な場面で、「人権尊重の考え方」に触れ、人権意識を高める。 	2	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活に対しては緊張感が薄れ、生活面における問題を露呈してきている。家庭と連携しながら、生徒の内面の成長を各場面で支えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導案件に際し、生徒指導部、各家庭と連携しながら各生徒と話を重ねたが、残念な結果につながることもあり、指導の困難さを痛感した。 全体としても規範意識が徐々に低下しており、集会やHRだけでなく、様々な場面で多くの先生方に関わってもらいながら生徒たちと向き合っていきたい。
	特別活動	学校行事、部活動を通しての人間形成	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事を通して、生徒一人ひとりの自己有用感を高め、「城陽高校への思い」のこもった良好な学校生活の基盤を作る。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 部活動生徒は自分の居場所を見だし、その役割を担おうと努力している。転部、退部生徒に対しては担任からサポートを継続する。 文化祭では各クラスが個性あふれるパフォーマンスを披露し、一定の成果が得られたと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動では徐々にその役割を自覚し、主体性を見せる生徒が出てきている一方で、なかなかその意義を見いだせず、活動参加が乏しい生徒もいる。 文化祭、体育祭では多くが積極的にに関わり、さらに数回の学年行事を通してクラスの団結を深め、よりよい学校生活につながった。

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	令和7年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
第2学年部	学習指導 進路指導	進路目標を明確化させる。	・面談や普段の会話等を通して、生徒一人一人の将来に向けた進路選択ができるように、進路部等とも協力し、自分自身の意志で進路選択を進めていけるように指導を進める。	3	3	3	・進路についての指導は、進路部とも連携して継続して行っている。 ・考查ごとに全ての生徒とのコミュニケーションを取ることは満足に行えていない。進路実現に繋がる学力の確保が大きな課題である。	・当初から進路部とも連携し、進路指導を密に行えた。早くから進路についての展望を見据えた講話や対話を行えた。しかし、進路実現のための学力の確保はまだ不足しており、特に中間層の生徒への対応を各教科の協力の元、進めていく必要がある。
		進路実現のための基礎学力の定着と発展的な学力を向上させる。	・進路実現に必要な学力を生徒自らが認識できるように、進路選択の指導に合わせ、考查ごとに生徒とのコミュニケーションを密に取るなどして、指導の余地を残さないようにする。	2	3			
	生徒指導	規範意識を徹底させる。	・継続した生徒指導と普段からの観察や声掛けを徹底するとともに、生徒自身に規律遵守の重要性を理解させていくように、生徒指導部等とも協力し、指導を進める。	2	2	2	昨年度よりは規範意識は身についたように思えるが、まだ十分ではない。研修旅行も控えているため、継続しての声掛けが必要である。	・全体的な指導件数は落ち着いたものの、繰り返し指導を受ける生徒が多い。また、繰り返した生徒の意識改善が為されていないので、声掛けや指導の方法などは、一律ではなく、個別に考えていく必要があるように思われる。
	特別活動	学校行事等を通して自己肯定感や達成感を感じられるよう指導する。	・文化祭や研修旅行といった大きな学校行事を通し、生徒自身が自分自身が自ら考え、動き、その結果を踏まえて反省、改善していくといったプロセスを通して成長していけるように指導を進める。	3	3	3	・文化祭では、多くの生徒が主体的に行動できていた。 ・研修旅行においても、自分たちで考えて行動していけるような指導を行っていきたい。	・学校行事等には積極的に参加する生徒が多いように思われる。 ・様々な場面で、自分たちで律し、考えて行動する場面や機会を多く作り出していきたい。
第3学年部	進路指導 学習指導	高校卒業に値する学力を獲得させ希望進路を実現させる。	・教科担当者との連携を密に行い、日々の学習に積極的に取り組ませる。	3	3	3	・1学期終了時点では、進路意識の高まりもあり学習に積極的に取り組ませることができた。	・進路実現に向け、細やかな面談を行い、具体的な指導を進路指導部と連携し進めることができた。
			・情報収集、スケジュール管理をしっかり行わせるとともに、進路実現に必要な学力の獲得に取り組ませる。	3	3			
	生徒指導	これまでに培った規範意識に基づき、自ら考えて行動できる力を身につけさせる。	・ルールを守ることを意味を日々の活動の中で理解させ、同じことを繰り返させない指導を行う。	2	3	3	・特別指導の対象となる事象はないが、日々の中で反省文等の対象となる事象が散見される。	・身だしなみ、遅刻の指導を受ける生徒が若干名いたが、概ね穏やかな日常を送らせることができた。
	特別活動	学校行事、部活動を通じてレベルの高いものを作り上げさせる。	・生徒一人一人の自己肯定感と自己有用性が高まるように、適切なアドバイスを行う。	3	3	3	・文化祭、体育祭等自分たちの持てる力を発揮できた。	・下級生の見本たる活動ができたかは不明であるが、個々に達成感を味わわせることができた。
事務部	渉外	学校と住民・来校者等をつなぐための、迅速で適切な窓口対応、電話対応を行う。	・学校行事、校時、教職員の動向の把握に努め、事務室内で情報共有する。	3	3	3	・今後も情報共有に努める	・事務室内での情報共有は万全とは言えないが、朝の連絡会後の打ち合わせなどは定着してきた。 ・安全・安心の観点からも、来校者に関する情報の共有は、さらに丁寧に行っていく。
			・来校者の目的・用務先等を正確かつ丁寧に把握し、来校者が円滑に目的を果たせるよう努める。	3	3			
	就学援助	生徒と保護者が安心して教育を受けられるための経済的支援体制の充実に貢献する。	・就学支援金や奨学金などの各種援護制度について、生徒と保護者へ周知が図れるようスタディサプリやホームページの活用をより進める。 ・生徒に不利益が生じないように、状況に応じて学級担任や他分掌との連携を密にする。	3	3	3	・スタディサプリの活用により、奨学金制度などの周知が進み、制度への申込も増えている。担任との連携も深めていく。	・スタディサプリの活用が定着した。 ・生徒・保護者への情報発信が進み、奨学金制度などへの関心、利用も高まった。
施設設備	安心安全な学校の環境整備に向けて最善を尽くす。ICT環境野整備を図る。	・状況改善のための迅速な対応に努め、生徒や保護者に向けた報告等を心がける。	3	3	3	・生徒や保護者に向けた報告は十分とは言えない。	・校内のLED化にむけた整備は進んでいる。 ・次年度はこうした改善の状況についての発信を進めたい。	
		・ICT環境整備に向けて関係分掌との連携を図り、機器の整備に努める。	—	3	3	・整備途中のため期末に評価する	・整備途中である。引き続き整備を進めていく。	

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性	
			中間	期末	総合			
国語科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。また、生徒が理解しやすく、意欲が高まる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶（起立・礼）をしっかりと行うなど、学習に向かいやすい環境作りに努める。 ICT機器や各種資料を効果的に活用することで学習意欲を喚起し、理解しやすい授業を展開する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律は一定保たれている。引き続き学習環境作りに努めていく。 また、ICT機器や各種資料を準備しながら授業を展開しているが、さらに有効な方法はないか引き続き模索していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律は一定保たれている。来年度も生徒が学習しやすい学習環境づくりに努めていきたい。 また、ICT機器を活用しながら、授業を展開したり課題の提出を行ったりはしている。しかし、それにより学習意欲が喚起されているとは言いがたく課題も残っている。次年度はスタディサプリを評価に組み込みながら活用していくことを考えていく。 	
	国語の学力を向上させ、生徒の希望進路実現に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習、課題を定期的に課すことで家庭学習を行う習慣をつけさせる。また、小テスト等を適宜実施することで、学力の向上を目指す。 配慮が必要な生徒や大学進学を考える生徒が増えている実情を踏まえ、授業や補習・個別指導を通じて個々の学力に応じた指導を強化する。 大学入試対策として、全学年で「書く」ことへの指導を行い、小論文や志望理由書が自分の力で書けることを目指す。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 課題や小テストは適宜行っているが、家庭学習の定着や学力の向上にまでは至っていない。 また、大学進学に向けて前・後期及び夏期の進学補講、HOPE講座を実施し、必要な生徒に対しては、個別指導も行っている。 「書く」ことの指導については、今年度から全学年で小論文対策用の副教材を購入しており、それを基本に授業内で「書く」指導を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や小テストは随時行っているが、勉強する生徒としない生徒の差がより一層広がっている。頑張らない生徒への補習なども行っているが、二分化する生徒層への対応は求められている。 今年度から全学年で小論文対策用の副教材を購入した結果、書くことへの抵抗感は薄らいでいるように感じられる一方で、評価の難しさも感じている。また、大学進学希望者には進学補講やHOPE講座を行い、適宜個別指導も実施した。 	
地歴公民科	世界の諸問題に対する思考力の向上をはかる。地図やグラフから、時代や地域の特色を読み取る力を養う。主権者としての政治的教養の育成をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 歴史では日本史と世界史を関連させ、図表等を効果的に活用し、世界における日本文化の特質を理解できるようにする。また、広い視野から世界の諸問題について考える力を養う。 地理では地図帳・資料集を活用し、生徒の問題意識を視覚的側面からも刺激する。 公民では現代のニュースと授業を関連させ、最新のデータ等を効果的に活用して生徒の知的好奇心を喚起させるとともに、主権者としての自覚をもたせる。 ICTの活用機会を増やし、様々な図や資料を掲示することで、生徒のさらなる意欲・関心の向上に取り組む。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 図表や地図帳の活用は概ね達成できており、写真などで視覚的に訴えることができている。また、地理では積極的に地図やデータを元にした、知識とその活用までを視野にいたれた授業を展開している。 公民科では調べ学習などでiPadを活用しており、主権者としての自覚をもたせる学習を展開している。 今後は総合的な探究の時間との接続も視野に置いて教師・生徒双方のやりとりを展開していければ良いと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において、重点目標を達成するための具体的方策について、概ね達成することができた。 教科内で成績不振の生徒も減っており、教科担当者によるサポートが機能している。 課題は学習習慣が定着していないことや計画的に学習することが不十分である点である。学習内容にどのような意義があるのか、生徒に訴え、動機付けをしていきたい。 また総合的な探究の時間が1・2年で実施となることから、実社会と結びつけるような課題に前向きに取り組むよう課題設定と働きかけを強化していきたい。 	
数学科	学習意欲を喚起し、確かな学力の定着を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 私語のない、授業規律の確保に努める。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 大半のクラス・講座が大人しく授業を受けているが、数学に対しての意欲が低い生徒もおり、居眠りする生徒がたまに見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの講座で落ち着いて授業に取り組む姿勢がみられる。しかし、意識の低い生徒に対しては、更なる対応の検討が必要である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣をつけさせるため、（週末）課題を与える。また、基礎力の定着を図るため小テストを行う。 	3	3		<ul style="list-style-type: none"> 適宜、小テスト、週末課題を実施している。定着を図れている生徒もいるが、全く勉強せずに小テストを受ける生徒や解答を写すだけの生徒もいる。 		<ul style="list-style-type: none"> 週末課題や考查前の課題、小テストなどについては定着している。しかし、その課題だけでは基礎力の定着が難しい生徒も一定数いるので、更なる対策の検討をしていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用やグループワークなどで、生徒の学習意欲や理解力向上を目指し授業改善を模索していく。 	2	2		<ul style="list-style-type: none"> 教員が指導する際にICT機器を使用する機会が多いが、生徒のタブレット利用についてはほとんどできていない。また、問題演習などでグループワークをさせてはいるが、生徒の学習意欲や理解力向上につながっているかはわからない。教科で模索していきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の説明をICTを活用し行っている。生徒の活用として、問題の解説などでICTを活用し共有する取り組みをしている授業もあるが、その割合は低く意欲や理解力向上に向けて更に方策を考えていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導を行い、様々な学力層の生徒に対応した指導を行う。 	2	3		<ul style="list-style-type: none"> 基礎固めや進学補講と、様々な学力層の生徒に対して指導を行っている。しかし、1・2年生の成績不振生徒が多数おり、危機感も感じられず、個に応じた指導が十分にはできていない。 		<ul style="list-style-type: none"> 放課後に補充や、基礎固めを計画して低学力層の生徒に対して、基礎力の定着を図った。 2学期以降、生徒の実態に応じて対策をとったため成績不振の生徒は大幅に減少した。 進学補講等も行ったが、様々な学力層の生徒に対して、今後指導内容の検討をしていきたい。

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
理科	確かな学力の定着	・その単元での到達目標を明確にし、教員が理解し授業を実施するとともに生徒にも明示し、基本的な知識を身につけ積み上げていくことの重要性を意識させる。	3	2	2	学習内容に関して、学習前の理解度と学習後の理解度をそれぞれ生徒に言語化させ、学習内容の深化を確認している。 ・個々の授業内容でみたときに、生徒にどこまで周知させられているかに課題がある。	・単元ごとに学習内容の深化を確認するだけでなく、小テストなども含め前時までの学習内容を確認する手段もより取り入れていきたい。
		・理科が日常に結びついていることに気づかせ、生徒が学びたいと思うような授業を実践する。	2	2		結びついていると感じた時に、生徒は強い関心をもって取り組むことが多い。自分の専門科目以外にも知識等を身につける必要がある。	・より専門科目以外の研鑽を深める必要がある。学校外の取組にも積極的に参加していきたい。
	主体的・協働的な学びの推進	・理科の内容を通じて、自分の考えや気づきを相手に伝える語彙力、表現力を育てる授業を実践する。	2	2	2	・自分の考えを文章にする取組や学習内容に関連する800字の作文等、各科目で語彙力を高める工夫を凝らしている。フィードバックに課題がある。	・語彙力の育成は学校全体の課題でもあるので、引き続き取り組んでいきたい。
		・デジタルコンテンツを中心とした視聴覚教材や実物等も用いて、生徒の興味関心をひきつける。	3	2		・タブレットを用いて各会社のデジタル教材を有効に使っている。	・さらに使いこなせるように取り組んでいきたい。
		・生徒がタブレットを活用し、他者とともに考えながら学べる機会を設ける。	3	2		・教員間で使用の頻度に差があるのが現状である。	・交流を増やし、使い方を共有していきたい。
	不断の授業改善	・教科内で、公開授業期間以外でも授業を見学するなど交流を大切にし、互いの良いところを取り入れるなど、授業改善に努める。	2	2	2	・公開授業期間以外での授業見学はあまり実施できていない。	・公開授業週間中もあまり見ることができていない。教科で何か取組を考える必要がある。
・教科研修を実施し、専門性の向上に努める。		1	3	・令和8年1月末に実施予定		・令和8年1月28日に京都市動物園にて研修を行った。動物のさまざまな生態や、キリンの骨格などを直に見ることができた。	
・日々の授業において観点別評価を行い、その結果を分析し、授業改善に努める。		2	2	・実施できていない時もある。		・すべての授業で取り組むことは難しいが、なるべく評価材料を増やしていきたい。	
保健体育科	個人・集団の規範意識の向上	・学習環境の維持・向上 (挨拶の徹底、服装・身だしなみの指導、荷物の整理整頓)	2	3	2	・成果としては、集団の規範意識は年々高まっている。しかし、校内にゴミが落ちていたり、落とし物や紛失物が昨年より多かったりする現状から、一部、規範意識や自己管理力の低い個人が存在しているため、学校として一貫した指導を継続していくことが必要である。その指導の積み重ねが、生徒と教職員の城陽高校への帰属意識を高めることや、誇りにつながる。	・課題として、体育館に土足で入る生徒やごみを放置する状態が散見され、危機感を感じている。 ・集団の規範意識が向上していた近年であったが、家庭での躾を受けていない生徒も増えているのではないかと考える。その規範意識の差を埋めるために、学校として一貫した指導を根気強く継続していき、社会に出ても通用するための力を養うことが次年度の方向性である。
		・帰属意識を高め、自身と自校に誇りがもてる指導	2	2			
		・体育授業後の授業遅刻に対する指導	2	3			
	主体性や自主性を育み、体力、語彙力・読解力を強化する授業	・ICTのより効果的な活用から生徒の主体的・自主的な学びを促進する指導	2	2	2	・成果として、保健の授業においては、教室でICTの活用から生徒の主体的な学びを推進できている。体育においては、活動場所には通信環境が整備されておらず、ICTの活用が十分にできない課題がある。 指導内容や方法については、各学年、生徒の実態に応じて変化させながら授業や指導に取り組んでいる。引き続き、生徒の主体性や自主性を育み、体力、語彙力・読解力を強化する授業を実践していく。	・体育においては、活動場所（体育館やグラウンド）に通信環境が整備されておらず、ICTの活用が十分にできないことが課題である。 ・授業や行事において、生徒主体で運営をしていく機会を多くした。それでも、例年と同様の成果は一定ある。そのため、次年度はさらに、生徒主体の機会を増やしていくことが方向性である。
・インプット(知る・分かる)とアウトプット(使う・伝える)に協働的に取り組むことのできる指導		2	2				
・一斉・個別指導の使い分けと適切な水準の課題設定により、スモールステップで達成感・充実感を味わうことのできる学習保障		2	3				
授業の準備・事後処理	・施設・用具点検、安全確認	3	1	2	・成果として、指導と評価の一体化は推進できている。 課題としては、施設、用具の劣化、消耗が著しい。熱中症予防のための体育館などへの空調整備も対応を検討していただきたい。男女の更衣場所の整備が必要である。	・施設、用具の劣化や老朽化が深刻で、生徒が怪我をする事態も発生しているため、早急に修繕や見直しを求める。さらに、空調や更衣室、執務室の整備も早急に対応を願いたい。	
	・指導と評価の一体化の推進	3	3				

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評 価			令和7年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
芸術科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。	・授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶、授業準備と片付けをしっかりと行い、学習に向かいやすい環境作りに努める。	3	3	3	・学習に向かいやすい環境作りに関しては、概ね達成できている。	・貸し出し道具・楽器類の整理等、学習に向かいやすい環境作りに努め、概ね達成できた。
	生徒が理解しやすく、興味関心を持てるような授業を展開する。	・ICT機器や各種資料を効果的に活用することで生徒の興味関心を喚起させ、分かりやすい授業展開を目指す。	2	3	3	・ICT機器の活用に関しては、科目によってばらつきがあることや、生徒の探求心が高まることに繋がっているかについて課題も見られる。 ・今後、作品鑑賞やタブレットを用いたの作品制作等にも活用していく。	・各種資料を活用し、常に生徒の理解が深められるよう取り組んだ。 ・科目によってはICT機器を活用し、題材ごとに作品や活動を記録することで生徒自身が活動を振り返り、それを元に相互鑑賞・交流できるよう授業を展開した。 今後、生徒がさらに探求心を持って学習活動に取り組めるよう、効果的な活用方法を模索していく。

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
英語科	<p>「確かな学力」を身に付け、多様な進路選択に対応できるよう、授業等の創意工夫に努める。</p> <p>ICT活用、多様な言語活動、多面的な評価の充実により、生徒達の英語学習へのモチベーションと英語力の向上を目指す。</p> <p>英語に苦手意識を持って入学してくる生徒が多い中、生徒達が授業を通して達成感や自己有用感、自らの成長を感じられる機会を増やす。</p>	<p>・家庭学習を定着させるため、各学年とも定期的に(週1～2回以上)単語テストなどの小テストを実施し、週末課題を課すなど計画的に取り組む。</p>	3	3	3	<p>・全学年、必ず1週間に1度は単語テストや文法問題の小テストを実施している。</p> <p>・プログレッシブコースに於いては、大学進学に備えて追加の課題並びに模擬試験対策の課題を出している。</p> <p>・年度末まで生徒たちのモチベーションを維持させながら、継続して取り組むように努めていく。</p>	<p>・全学年、必ず1週間に1度は単語や文法問題の小テストを実施することで、既習事項の定着につながった。</p> <p>・プログレッシブコースに於いては、大学進学に備えて追加の課題並びに模擬試験対策の課題を与え、実践力を鍛えたとともに、受験に対する意識向上につながった。</p>
		<p>・個人・ペア・グループでの言語活動(音読、対話練習等)の機会や各レッスンのテーマについて考える機会を増やすことで、英語でコミュニケーションを取ろうとする態度を養うとともに、主体的に学ぶ態度を養う。</p> <p>・またパフォーマンス課題(音読テスト、レシテーションコンテスト等)を課し、英語で話すこと、人前で発表すること、自己表現の楽しさを実感させる。AETを積極的に活用して4技能5領域の向上を目指す。</p>	3	3	3	<p>・教科書の単元を活用した個人、ペアまたはグループでの言語活動を積極的に取り入れている。</p> <p>・教科書の単元に関連した調べ学習なども実施している。</p> <p>・パフォーマンステストとして、プレゼンテーションや音読テストを実施し、4技能の向上につながるよう指導している。</p> <p>年度末まで生徒たちのモチベーションを維持させながら、継続して取り組むように努めていく。</p>	<p>・全学年で、教科書の単元に関連したテーマでプレゼンテーションや調べ学習などのさまざまな言語活動を積極的に取り入れた。</p> <p>・レシテーションコンテスト(1,2年生)やプレゼンテーション、音読テスト等のパフォーマンステストを実施し、人前で発表する機会を定期的につくり、意欲向上に務めた。</p> <p>・個々の教員が日常的にペア・グループワークを取り入れ、英語を実践的に活用する言語活動を行った。</p> <p>・次年度は、即効的な実践力を鍛えるパフォーマンステストの実施を目指す。</p>
		<p>・進路実現のためのスキルアップ、英語力向上の手段としてGTECの受験を奨励する。即興性のあるスピーキング力や自らの意見を論理的に伝えるためのライティング力の向上を軸としたGTEC対策を授業に取り入れ、サポート体制を強化する。</p> <p>・HOPE講座や進学補講等、スタディサプリを活用し入試対応力を育成することで生徒の進路実現を支える。</p>	3	3	3	<p>・授業や授業内で行う言語活動を通して4技能の総合的な育成に努めている。</p> <p>・HOPE講座や進学補講等を通して、入試対応力の育成に尽力している。</p> <p>・今後はスタディサプリを最大限活用し、家庭学習の促進につなげる必要がある。</p>	<p>・授業内で実施する言語活動を通して、4技能の総合的な育成に努めた。</p> <p>・さらに、各学年で実施しているHOPE講座や進学補講等を通して、入試問題や模擬試験の過去問題に取り組み、入試対応力の育成に尽力した。</p> <p>・スタディサプリの活用は、教科担当によって差が出ないよう、同じ科目については共通の週末課題や日々の課題を出す等して今後活用していく。</p> <p>・次年度も補講等を通じて、入試対応力育成に取り組み、また日々の授業においても入試を想定した問題演習や読解問題等を取り入れていく。</p>
		<p>・BYODによるiPad導入に伴い、教科内で効果的なICT活用法について活発な情報共有を行い、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びの推進に努める。</p>	2	3	3	<p>・タブレットを活用した個人又はグループプレゼンテーションを定期的実施している。</p> <p>・ロイロノートを導入して、音読テストも実施している。</p> <p>・タブレットを活用することで、言語活動の幅が広がる一方で、考えることなく安易に答えを検索してしまう使用方法には改善の余地がある。</p>	<p>・タブレットを活用した個人又はグループプレゼンテーションを定期的実施した。</p> <p>・また日々の音読などで積極的にICTを活用し、多様な言語活動を行った。</p> <p>・生徒のタブレット使用においては、すべての情報を検索して調べるのではなく、タブレットを使用しない時間を決めて、生徒が自分で考えて、自分の意見や考えをまとめる時間を確保するなどして、「語彙力」向上につながるよう取り組んだ。</p>
英語をコミュニケーションの手段として使う経験を通して、英語を使う楽しさを実感し、将来海外の人と積極的に関わろうとする生徒を一人でも多く育てる。	<p>・授業内での英語での発表活動、イングリッシュチャットなど、生徒達が英語に対する興味関心を深められるような活動を企画、実行する。また、総務企画部と連携し、校外外にその様子を報告する。</p>	3	3	3	<p>・より多くの生徒がALTや英会話に親しめるように、ALTとともに昼食をとり、英会話の練習をするイングリッシュランチを実施している。</p> <p>・さらに、例年通り、Odd Socks Dayを11月に実施する予定である。</p> <p>・3年生に於いては、小学校で訪問授業を行うための準備しており、英語に対する興味関心や、英語を学ぶ楽しさを感じることが出来る機会となっている。</p>	<p>・ALT教員を中心として、週に1度のイングリッシュランチを継続した。少人数ではあるが、継続して参加する生徒もおり、言語習得の意欲向上につながった。</p> <p>・また、昨年度に引き続き6月にプライドウィーク、11月にOdd Socks Dayを実施した。授業でも多様性を尊重するスローガンを考えるなどの取り組みを行った。</p> <p>・3年生に於いては、英語特講の授業で小学校への訪問授業を実施した。</p> <p>・教える側の立場に立って、英語を楽しく学ぶことを目標に準備し、小学校での訪問授業に向けて意欲的に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>・次年度は海外の学校との交流事業に参加したい。</p>	

令和7年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和7年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
家庭科	主体的に考え、実践できる学びをすすめ、生活を自分事として創造する姿勢を育む	・1年生家庭基礎において、定期的に文字数を示した記述にとりくませることで語彙力を強化し、論理的思考力を育成する。	1	3	3	・記述に取り組みせる回数がまだ数回なので、今後、自立をテーマに論理的思考力が身につくよう指導を重ねていきたい。	・ループリックを説明し、書き方の指導をした上で記述させたことにより、根拠を示して表現する力は向上したが、内容に具体性が欠けることで説得力のない文章が散見されることが今後の課題である。
		・ホームプロジェクトの内容を向上させるための指導方法を工夫することで、挑戦する意欲や表現力を育成する。	1	3		・総探の樹形図を使用して取り組むテーマを決めてみたい。	・樹形図を上手く活用できた。昨年に比べてスライドの作り方（構成）を丁寧に指導したので全体的に発表内容は向上したが、取り組みの結果の示し方が不十分なまま振り返りに展開していくスライドがよく見られた。結果と振り返りが混同しているところが改善点である。
	新観点別評価への対応	・1年生家庭基礎では第Ⅲ観点の評価方法を増やすことで、生徒の主体性をより適切に評価する。	3	4	3	・加点方式の宿題に取り組みせ、第Ⅲ観点を評価できたことで、昨年度の課題に感じた点は解決できている。 ・全体のバランスを考えると必履修である家庭基礎において第Ⅰ観点の知識・技能を向上させることが今後の課題である。	・3学期も引き続き加点方式で評価した。来年度も取り入れていく。 ・第Ⅰ観点を考査以外で評価していく方法を来年度は検討していきたい。
・3年生フードデザインおよび保育基礎において、第Ⅰ観点を評価する場面を設定することで、評価のバランスを整理する。	2	3	・フードデザインの実習において、ねらいにそって第Ⅰ観点を評価する写真を提出させている。それにより、実習で生徒自身がポイントにしたいことを他者と確認しながら意識できているように感じる。 ・保育基礎は課題演習を中心に、生徒の主体的な活動において第Ⅰ観点の評価をとれるようにしている。	・ファッション造形基礎やフードデザインは第Ⅰ観点が整理できた。 ・保育基礎において課題を中心に第Ⅰ観点を評価できるよう検討していく。			
情報・ 商業科 ・ 科	「わかる授業」の実践を行い、個々の生徒に応じた学力の伸長を目指す	・基礎基本を徹底し、定期考査の平均60点を目標に、個に応じたきめ細かな指導を実践する。	2	3	3	・落ち着いた環境の中で授業を行うことができている。また、学力の底上げができつつあると感じている。	・最後まで、落ち着いた環境で授業を行うことができたと感じている。次年度はさらに学力の向上を目指して行きたい。
		・個に応じた「確かな学力」を身に付けさせるため、わかる授業を意識した授業を行い、学年末の成績による不振者0を目指すとともに、各種資格取得を目指す生徒の希望を実現できる学力を身につけさせる。	2	3			